

ま え が き

昭和37年7月、教育研究所創立十周年記念事業として、夢にえがいた総合教育センター建設の理想が実を結んだ機会に、当研究所では五大記念行事を計画したが、その一つが研究論文を募集し、優秀作を刊行することであった。

研究論文募集の目的は、いうまでもなく当研究所の念願とする本県教育研究活動の振興であるが、特に今回は当研究所の重点事業である学習指導の改善ならびに教育相談に関して、具体的実践的な研究の高揚を図ったものである。

幸いにして全県から、各教科に関する学力向上の実践的研究ならびに生活指導・教育相談等に関する実践的研究が続々と寄せられ、本県の教育研究に対して深い信頼と期待をもつことができた。このように熱意こもる研究論文が多数集まったため選考に迷うほどであったが、慎重審査の結果ここに五編を刊行し、県内外に広く紹介して教育実践の参考に供すると共に、応募者各位の労に報いることとした。

この五編は四教科ならびに教育相談に関するもので、それぞれ独自の意義をもっている。「構想に重点をおいた作文指導の一事例」は、作者の構想を母体としながらも、表現効果の立場からこれを改善して作品の質を高めた個別指導の例であり、「中学校における計算尺の効果的指導」は、とくかく軽視されやすい計算尺の指導に、数学的意義を見いだした10年間のためまざる努力による研究成果である。

また「生徒の自然認識の実態とその指導」は、理科教材の論理的、心理的性格の再吟味にもとづいて、生徒の自然認識の実態を見直し、たしかな指導方法を見いだそうと試みたものである。ついで「体育学習における教師の働きかけ」は、体育学習の本質を深くみつめ、その全体構造に立脚する確かな指導の実践研究である。最後の「家庭生活に原因する問題生徒の継続的指導」は、家庭に寄りつかなくなった生徒について、その家庭との連絡を強化しつつ、継続的に日記をとおして指導を行なった尊い記録である。

いずれも努力の結晶であるが刊行するという立場から、当研究所側で多少の助言を加え、それを参考にしながら原稿を再度執筆していただいた。このような過程を経たので巻末に一括記載した関係研究員の所見をもあわせてお読みいただければ幸いである。

当研究所としては、このたびの企画をよい経験として、今後も実践的研究を奨励普及するために、本年度は教育実践研究発表会と仮称して、教育実践家の研究を助成して発表会を開き、いささか本県教育のために貢献したいと考えている。この論文集が、実践的研究の振興に役だつことを念じ、応募者各位に対して深く感謝の意を表したい。

昭和38年3月23日

新潟県立教育研究所長

小林 正直